

3月の園だより

令和8年3月2日
目黒区立菅刈保育園園長

2月下旬の連休で一足早く春のような気温になり、西郷山の河津桜がすでに満開となり、とてもきれいに咲き誇っています。暑さ寒さも彼岸までという言葉のとおり、三寒四温を繰り返しながら春の足音が近づいているようです。

1、2月に行った各クラスの懇談会には、お忙しい中たくさんの保護者の方にご出席いただき、ありがとうございました。成長を喜び合う機会であったとともに、その喜びに至るまでの葛藤も共有し共感できる場になったのではないのでしょうか。どのクラスも保護者の方にとっての“困ったな”が言葉の端々に見え隠れしていました。“困った”は大人側の思いで、子どもにとっては“困っている”ことになります。見方を変えて子どもに寄り添い、適切な手立てを講じることで子どもは安心して大きく伸びていきます。見方が変わると子育てのヒントも見えてきます。ヒントにピンポイントが合ったとき、“困った”から“よかった”へと変わっていきます。子育てをしている経過の中で行きつ戻りつするのが育児で、人間として成長していく上で大切なことだと思います。同じ年齢の子どもを持つ保護者の方同士の間には、子育てをしていく中で「うちだけではない」「どこも同じ」という安心感や、悩みに対する子育てのヒントにもなり、メリットがたくさんあります。縁があり、同じ園の同じクラスになった仲間同士、この先もずっと良い関係を紡いでいただければと思います。

一年間、園の運営にご理解ご協力をいただき、ありがとうございました。子どもたちが毎日笑顔で元気に過ごせたことに感謝しています。

もうすぐ子どもたちは一つ大きなクラスに進級します。そして年長児は小学校への就学を迎えます。新たな出会いの中で自分の力を発揮し、一人ひとりが自分らしく過ごしていけるよう、これからも見守っていききたいと思います。

《今月の予定》



- 身体計測
- 卒園式
- なかよし散歩
(3, 4, 5歳児クラス)
- 地域交流ドッチボール大会(5歳児クラス)

- 避難訓練
- 新クラスへの移動日
- お別れ会



一年間で心も身体も大きくなりました。子どもたちの成長した姿をお伝えします。

つぼみ組(0歳児クラス)「もう一回やりたい」

保育士が「おすもうくまさん」の歌を口ずさむと、ずっと子どもが寄ってきて保育士に手を伸ばします。「一緒にやる」と聞くと頷いて両手を繋ぎ、歌いながら左右に体を動かすとニコリ笑って嬉しそうです。繰り返し踊り、終わると指を一本立てて、もう一回とリクエストです。周りの子ども「やりたい」と次々に集まり、側で見ていた子ども楽しそうに笑顔で体を揺らしています。入園当初は腹ばいやはいはいをしていた子どもたちも、戸外など広い場所では歩いて散歩に行き、見つけたものを教えてくれたり、保育士の手を引いて“あっちにいこう”と誘ってくれたりして行動範囲も広がりました。一年を通し安心できる保育士との関係の中で、心も体も大きく成長した子どもたちです。



すみれ組（1歳児クラス）「いろいろなことができるようになったよ」

4月の頃は保護者と離れる時に不安そうにしていた子どもたちですが、今では「おはよう」と元気に笑顔で登園しています。園庭でもやりたい遊びをそれぞれ見つけて自分から遊び始める姿が増えてきました。大きなタイヤにより登ったり高さのある所からジャンプしてみたりと、体を使う遊びをすることも積極的に楽しんでいます。また、お兄さんやお姉さんの真似をして縄跳びやぽっくりを持ってきて「どうやってやるの」「せんせいみてて」と言いながらやってみようとする姿も見られます。これからも一人ひとりの“やってみよう”という姿を大事にしていきたいと思ひます。



ひまわり組（2歳児クラス）「見ててね 自分でできるよ」

元気いっぱいひまわり組の子どもたちは、友達と遊ぶのが楽しくて「〇〇ちゃん一緒に遊ぼう」と誘い合いながら遊ぶ姿も増えてきています。上着のファスナーを保育士が手伝おうとすると「じぶんで」と少し難しいことも友達の姿を見ながらやってみようとする姿が育ってきました。脱いだ服を自分でたたんでみたり、少しの援助でできることが増えてきています。一方で、できるけどやってほしいと甘える姿もあります。甘えたい気持ちを受け止め頑張ろうとする気持ちにつながっていききたいと思ひます。



りす組（3歳児クラス）「今日一緒に遊ぼう」

この1年間で「一緒に遊ぼう」「いいよ」「鬼ごっこしよう」「いいね」と、誘い合う会話がよく聞こえてくる様になりました。おうちごっこでは「ここが遊ぶ部屋で、ここが寝る部屋ね」とイメージを伝え合って家を作り上げたり、鬼ごっこや転がしドッチボール等、簡単なルールのある遊びでは少しずつ自分たちでやり取りしながら遊びを進められるようになってきました。友達と一緒に遊びの面白さを共感し、満足するまで楽しんだ経験は、子どもたちの自信にも繋がっています。これからもどんどん楽しいことを見つけて成長していく子どもたちの姿を見守っていききたいです。



うさぎ組（4歳児クラス）「友達と育ち合った一年」

友達との関係が広がって少人数から大人数へと遊びの輪が大きくなり、氷鬼や色鬼など集団遊びを楽しんでいます。みんなで遊びを進める姿が増え、その中で仲間意識も育ってきました。遊びの中で思いの違いから言い合いになることもありますが、その経験を通して「どうしたらいいかな」「次はこうしよう」と自分たちで考える姿が見られるようになりました。また、悔しい思いや嫌だった思いをしても「楽しかったからまたやりたい」「もう一回やってみよう」と自分で気持ちを切り替え再び遊びに戻っていく姿も増え、心の成長も感じられます。日々の経験の積み重ねを通し、仲間と育ち合いながら一人ひとりのさらなる成長につながっていくことが楽しみです。



きりん組（5歳児クラス）「仲間とともに」

きりん組になり、日々の遊びのルールや行事でどんなことをしたいかなど、子どもたちの思いや考えを話し合うことを重ねてきました。自分の気持ちを伝えるとともに、友達の気持ちも聞いて理解する姿も増え「じゃあ、こうしようよ」「いいね」と子ども同士で意見を伝え合いながら、調整できる様になってきました。友達と意見を出し合い受け止めてもらう事で、お互いの存在を認め合い仲間関係の深まりにつながっています。仲間の一員として認められる喜びや行事などをやり遂げた充実感を得られた事は一人ひとりの自己肯定感につながり、就学後の新たな環境の中でも、一步を踏み出せる力につながっていくと思ひます。

